

第15回 Cosmic Dust研究会 (The 15th meeting on Cosmic Dust) 開催報告

大村 知美¹



図1: 参加者の集合写真(エクスカーションで訪問した法隆寺にて).

1. はじめに

2025年9月16日から9月20日にかけて、第15回 Cosmic Dust 研究会 (The 15th meeting on Cosmic Dust)が開催されました。この研究会は、2006年にシンガポールで開催された第3回 AOGS annual meeting(アジア-オセアニア地球惑星科

¹大阪産業大学
tomura@edo.osaka-sandai.ac.jp

学会年会)の1セッションとして始まり、第4回まで AOGSセッションとして開催されたのち、2012年以降は独立した国際会議として毎年夏ごろに開催されています(コロナ禍であった2020~2022年は休止)。第15回目となる今回は大阪産業大学梅田サテライトキャンパスで開催されました。例年より遅めの開催でしたので、暑さが和らぐことが期待されましたが、実際には猛烈な残暑が続きました。そのような状況において、会場が駅から地下街直結のビル内にあった

ことは幸いでした。今回のLOCメンバーは以下の13名です(50音順, 敬称略):榎本華子(東京大学), 大村知美(大阪産業大学), 大坪貴文(産業医科大学), 奥谷彩香(ウォーリック大学), 金田英宏(名古屋大学), 木村宏(千葉工業大学), 小林浩(名古屋大学), 下西隆(新潟大学), 千秋博紀(千葉工業大学), 茅原弘毅(大阪産業大学), 梨本真志(新居浜工業高等専門学校), 和田浩二(千葉工業大学), 吉田雄城(神戸大学)。本開催報告は, 世話人を代表して, 今回のLOC Chairを務めた大村が執筆します。

宇宙塵(Cosmic Dust)は, 銀河, 星間空間, 惑星系, 彗星や小惑星といった小天体等, 幅広いスケールや領域においてそれらの起源・進化に深く関係しており, 宇宙塵を扱う研究者はこれらの多岐にわたる学問分野に点在しています。本研究集会は, 異分野の宇宙塵研究者らが専門知識を共有し合うことが出来る場を提供し, 共同研究を促進するとともに, 持続的な研究者コミュニティの構築に貢献することを目的としています。また, 日本開催を継続することで, 宇宙ダスト科学のメッカとしての国際的地位を確立することも目標としています。

今回の参加者は50名(LOCとSOC含む)で, 日本国内をはじめとして14か国からの参加がありました。日本からの参加者は20名(LOCを含む)で, ほかは国外からの参加者でした。

2. 本研究会の特色

本研究会は, 参加者間のコミュニケーションを促進し, 継続的な結びつきを生み出すことを重視して, 参加方式は対面のみ, また全日程への参加を必須としています。同じ理由から, 参加者の人数も, 発表内容に基づいて50名に厳選しています。密な議論を促すため, ポスターセッション兼コーヒーブレイクを午前・午後各60分分配していることも特徴です。例年, ポスターの前で参加者が熱い議論を交わす様子が絶えず見られます(図2)。また, ポスター発表者はポスター賞の審査にエントリーするシステムになっており, 招待講演者によって受賞者が選定されます。ポスター発表者には若手研究者も多いですので, キャリアの長い招待講演者と若手研究者が直接交流しやすい仕組みになっています。また, 毎日LOC主導で



図2: ポスターセッション兼コーヒーブレイクの様子。

非公式のNight Session(夕食会)を実施しており, 二次会, 三次会…とカジュアルな交流を深める参加者も多いようです。

3. 口頭講演・ポスター講演

口頭講演セッションでは招待講演7件を含む28件の講演が行われました。また, 口頭講演セッションの間に行われたポスター講演セッションでは, 13件の発表が行われました。セッションは以下の7テーマで構成され, 多様な話題提供がなされました。

- ・SOLAR SYSTEM
- ・EVOLVED STARS & SUPERNOVAE
- ・DEBRIS DISKS
- ・STAR-FORMING REGIONS
- ・PROTOPLANETARY DISKS
- ・GALAXIES
- ・INTERSTELLAR MEDIUM

内容に関する詳細を知りたい方は, 研究会のwebページ(https://www.cps-jp.org/~dust/Welcome_XV.html)で公開されているプログラムおよび発表要旨もご参照ください。

4. エクスカーション・バンケット

会期3日目の9月18日には, エクスカーションとして法隆寺を訪問しました。また, エクスカーション後はラグナヴェール大阪へ移動し, バンケットが実施され

ました。例年、会場間の移動の際はバスをチャーターしていますが、バスが相席になることから生まれる交流もあるようです。バンケットでは参加者それぞれの要望に対応するためビュッフェ形式を採用しましたが、それでも厳格なベジタリアンにとっては選択可能な料理がかなり限られていたようです。国際的な研究集会において多様な食事制限に配慮することの難しさが改めて認識されました。

5. おわりに

今回は2026年8月31日から9月4日にかけて、新居浜工業高等専門学校(愛媛県新居浜市)での開催を予定しています。興味を持たれた方のご参加を歓迎いたします。

謝辞

研究会の開催にあたり、井上科学振興財団、天文学振興財団、大阪産業大学学会からの支援を頂きました。また、会場準備にご協力いただいた大阪産業大学サテライトキャンパス事務局の方々にもこの場を

借りて感謝申し上げます。また、本会の運営にあたり様々にご尽力くださったLOC/SOCメンバーの皆様に改めて感謝申し上げます。特に、SOC Chairを兼任される木村宏さんや、大阪産業大学の茅原弘毅さんには色々と手助けして頂きました。LOC Chairとして色々と未熟な私でしたが、無事研究会を終えられたのはお二人のおかげです。重ねて感謝申し上げます。

著者紹介

大村 知美



大阪産業大学全学教育機構准教授。神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻博士課程修了。博士(理学)。名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻研究員、大阪産業大学全学教育機構

特任講師、講師を経て、2024年4月より現職。専門は実験惑星科学。日本惑星科学会、日本物理学会に所属。